

平成 26 年 9 月 11 日

◎明神委員長 ただいまから、総務委員会を開会いたします。 (12 時 59 分開会)

本日の委員会の日程につきましては、お手元にお配りしてある日程によりたいと思いませんが、御異議ございませんか。

(異議なし)

◎明神委員長 御異議なしと認めます。

#### 《教育委員会》

◎明神委員長 それでは、教育委員会より 1 件の報告を行いたい旨の申し出があつておりますので、これを受けることにします。最初に、教育長の総括説明を求めます。

なお、教育長に対する質疑は、各課長に対する質疑とあわせて行いたいと思いますので、御了承を願います。

◎田村教育長 委員の皆様におかれましては、お忙しい中、県立高等学校再編振興計画に関する説明の場を設けていただきまして、まことにありがとうございます。県立高等学校再編振興計画につきましては、計 14 回開催しました教育委員協議会におきまして、前期実施計画案のたたき台で統合の対象となりました各学校の関係者や県内教育関係者に出席をいただきまして、丁寧な説明を行い意見交換を重ねてまいりました。協議の経過につきましては、折に触れこの総務委員会でも御報告させていただいておりますが、今週 8 日に開催いたしました教育委員協議会で高知南中学校・高等学校の保護者等を代表する方々から統合の方向性について一定の御理解をいただき、計画策定に向けた意見公募の開始について御了承をいただきましたことで、統合の対象となった 4 校全ての関係団体の代表者の皆様に統合の方向性については、おおむね御理解いただくに至っております。これまで重ねてまいりました意見交換の内容も踏まえまして、本日午前中に開催いたしました教育委員協議会において、県立高等学校再編振興計画及び前期実施計画の案を取りまとめております。なお、あしたから意見公募を開始する予定でございます。本日は、この計画案の内容等について御説明をさせていただきます。

#### 〈高等学校課〉

◎明神委員長 続いて、所管課の説明を求めます。「県立高等学校再編振興計画について」、高等学校課の説明を求めます。

◎坂本高等学校課企画監兼再編振興室長 「県立高等学校再編振興計画の策定について」、御説明させていただきます。総務委員会資料の高等学校課の赤いインデックスの 1 ページをごらんください。再編振興計画につきましては、平成 24 年度、平成 25 年度の取り組み状況ですが、7 月の総務委員会で、このページは御報告させていただいておりますので、説明は省略しまして、次の 2 ページをお開きください。

平成 26 年度の取り組み状況につきまして御説明させていただきました 8 月 8 日以降の

第 11 回、第 12 回から御説明させていただきます。11 回、12 回につきまして、高知西高校、それから高知南中学校・高校の関係者の皆様に、新しい中高一貫教育校の目指す姿に向けての両校の教育の充実策などを、前回から、さらに詳細な資料を作成して、御説明させていただきました。それから、第 11 回の高知西高校の関係者の皆様方からは、先ほど教育長が申しましたように、一定の御理解をいただけたところです。また、第 12 回、第 13 回の教育委員協議会におきましては、高知南中学校・高校の関係者の皆様方と協議し、統合の進め方につきまして、高知南中学校・高校の関係者の御意見では、中学生と高校生が一度に新しい中高一貫教育校に移る案は検討できないかといった御意見をいただき、2 回にわたりまして教育委員会としては困難であるという理由を説明させていただき、会議を重ねました。それから、その会議とは別に、事前に両校の各団体の会長、副会長などの役員の方々に御説明も重ねてきたところです。この結果、5 回目となります、第 13 回教育委員協議会の場で、高知南中学校・高校の一部の関係者からは統合の仕方につきまして最後の学年が残ることについて、さらなる検討を望むという御要望はございましたが、両校を統合してグローバル教育を核とします中高一貫教育校を設けることにつきましての意見公募の手續に移ることにつきましては、おおむね御理解をいただけたところです。また、統合後の中高一貫教育校の校名等について、両校の関係者から相反する御意見をいただいておりますが、まずは将来の子供たちのために統合のあり方を決定した後、来年度以降、統合するまでの間、両校の御意見をお伺いした上で、県民からの意見もお聞きしながら、県教育委員会の責任を持って決定させていただきたいという方針についても、両校の関係者の皆様からおおむね御理解をいただいたところです。

続きまして、「県立高等学校再編振興計画（案）」につきまして、概要版で御説明をさせていただきます。県民の方々によりわかりやすく御説明するために概要版を作成しております。1 ページをごらんください。最初に、県立高等学校再編計画の基本的な考え方について、まとめております。最初に、生徒数の大幅な減少と社会環境の変化のところにございますように、高知市内におきましても、今後 10 年間で約 300 名の生徒数の減少等、急激な社会環境の変化の中で、みずから学び、判断できる人材が求められておまして、また南海トラフ地震に向けて、安心して学ぶことができる教育環境の整備が必要となっておりまして、その中で、県立高等学校再編計画の 5 つの視点として、キャリア教育の充実ですとか、生徒の減少に対応しますような適正な学校規模の維持や南海トラフ地震への対策の推進など、5 つの視点を掲げております。その視点に基づきまして、県立高等学校の適正配置につきまして、学校規模の基準を定めさせていただいております。1 つ目は、適正規模として、基本としましては、県全域で「1 学年 4 ～ 8 学級」が必要ということをお示させていただいておりますが、一方、一定の生徒数が見込まれます高知市及びその周辺地域におきましては、より活気あふれる学校づくりができる「1 学年 6 学級以上」の学校規模の

維持に努めたいと考えております。これにつきましては、高知県特有の地理的要因ですとか、全国的にも先行しております過疎地域における急激な人口減少ですとかいったこと、その中でも高知市周辺に人口が集中しております状況などを考慮して、県内を高知市周辺、過疎地域と大きく2つに区分けした定め方をさせていただいております。また近年ニーズが増してきております、不登校や中途退学を経験した生徒などを受け入れます学び直しの機能を持った学校も、「1学年1学級（20人以上）以上」で維持すると定めております。

次の2ページをごらんください。県立高等学校再編振興計画の前期実施計画について、御説明させていただきます。これは、再編振興計画の基本的な考え方に基きまして、平成26年度から平成30年度の5年間の具体的な計画を定めたものです。具体的な統合について御説明をさせていただきます。1つ目は、高知南中学校・高等学校と高知西高等学校の統合です。実施年度としては、平成30年度に新たな中高一貫教育校の中学校の設置。また、統合の仕方につきましては、高知南中学校・高校の関係者の御意見により、当初のたたき台案から見直した結果、平成30年度から平成32年度に高知南中学校に入学しました生徒が、基本的に統合後の高校の普通科に入学する形をとりますことで、高知南中学校・高校の下に学年がない期間が2年間に短縮されることになっております。また、平成33年度に新しい中高一貫教育校にグローバル教育科を設置して、3年生までがそろいます平成35年度に統合完了となります。

次に、(1) 統合の考え方として、今後の生徒数の減少に対応するために、グローバル人材の育成に向けた教育活動の充実と震災に強い教育環境の整備を目的として、新たな中高一貫教育校を現在の高知西高等学校の敷地に設置します。また、(2) 新たな中高一貫教育校の目指す姿としては、グローバル教育を柱に位置づけして、みずから課題を発見し判断する探究型学習などを行うことによりまして、本県のグローバル教育のトップ校を目指してまいります。あわせて大学進学の出発校を目指してまいります。(3) 統合の方法につきましては、平成30年度に新たな中高一貫教育校に移行して、併設中学校を開設します。平成30年度から平成32年度の高知南中学校の入学生は、入学定員を削減して、学力の定着状況等を確認の上、基本的に新たな中高一貫教育校の併設高等学校の普通科に入学します。(4) 両校の教育環境の充実策をまとめさせていただいております。特に、平成33年度から同時に募集停止となります高知南中学校、それから高知南高等学校では、探究型学習などを先行して取り入れながら、教育センターと密接に連携して充実した教育環境を整えることで、これまで以上の志願者の確保に努めたいと考えております。

次の3ページをおあげください。須崎高校と須崎工業高校の統合について御説明をさせていただきます。平成29年度には新入生から総合学科を普通科へ改編して、須崎工業高校では同じく新入生から現行の4学科の内容を継承する方向で学科改編を行います。その形で3年生までそろいます平成31年度に統合完了となります。(1) 統合の考え方として、

両校とも1学年3学級規模の学校となっております。今後適正規模を維持していくためとあわせまして、現在、河口付近にございます須崎高校は、津波への対応が必要となっておりますことから、高台にございます須崎工業高校と統合しますことで、6学級規模の学校となりますこと、それから津波対策を同時に解決できる案となっております。(2) 目指す姿としまして、高吾地域の拠点校ということで、国公立大学進学に対応できますカリキュラムの編成ですとか、工業科での就職支援を強化したいと考えております。統合の方法としては、平成29年度の入学生より、須崎工業高校では現在の4学科の内容に継承する方向で学科改編を行い、須崎高校では総合学科から普通科に学科改編を行います。(4) 教育環境の充実策としては、ハード面の整備として、校舎の増改築や設備の更新、グラウンドの拡張とあわせまして、災害時の地域の避難路として活用できます通学路の整備を行うことも検討してまいりたいと考えております。

次の4ページをおおげください。最初に御説明させていただきました、今後10年間の計画の中での適正な学校規模の維持と適切な学校配置について、わかりやすくまとめたのがこの資料となっております。例えば、最低規模を「1学年1学級(20人以上)以上」として、できるだけ維持していく中山間地域の学校につきましては、右下の凡例にございますように二重の枠の括弧で囲んでおります、室戸高校、嶺北高校、構原高校などの7校です。点線で囲んでおりますのが、南海トラフ地震への対応を検討する学校でありまして、安芸高校などの5校です。それから、学び直しの機能を持った学校としては、四角の黒で塗ってあります、中芸高校、城山高校、高知北高校などの5校です。

それから、本編の資料につきましては、1ページから10ページまでが、基本的な考え方となっております。それから、11ページ以降が、その具体的なことを定めました前期実施計画となっております。先ほどの4校の統合の内容ですとか、全県立高等学校の具体的な学校のあり方を示させていただいております。この全校の具体的なあり方を示したのが、今回初めて計画を策定する中で行ったことです。今回、再編の振興計画ということで、従前は再編計画のみでしたが、振興が入ることで、全校の目指すあり方を今回初めて策定しました。また、35ページ、36ページ、37ページの3つにつきましては、教育委員協議会の中で議論していく上で、重要なポイントとなる点の資料を抜粋で掲載しております。最後に、先ほど申しました今後意見公募の手続に入らせていただきますが、あすの9月12日から10月11日の30日間を予定しております。当課のホームページでもこの内容はご覧いただけますが、直接入手したい場合は、高等学校課、市町村の教育委員会、県の教育事務所、それから県福祉保健所などで入手することができる手続を進めております。

以上で、高等学校課の説明を終わらせていただきます。

◎明神委員長 それでは、質疑を行います。

◎土森委員 延べ14回にわたって教育委員協議会を開き、関係者の皆さんの意見を聞きな

がら、当初の計画よりも随分といい計画ができたと思います。慎重に意見を聞きながら真摯に受けとめて、その上で計画づくりが進んできたと思います。その中で、この統合がどうしても必要なのかという説明もありました。生徒数の減少、あるいは、公立高校としていい教育環境をつくって、いい成績が残せるような学校づくりをしていくということで。我々としては、追手前高校と対抗、競争ができる新しい学校ができると考えておりました、その上で、南海トラフ巨大地震への対応について、私も南海地震対策再検討特別委員会の委員長として、いつも教育施設、学校ということで学ぶ子供たちの命をいかに守るか、これが特別委員会の審査の過程で自分自身が要注意し、それにどう対応するか問題を提起しながら取り組んできた経緯があります。それを考えますと、しっかりした計画づくりができて、いいものができたなと思います。総務委員会ですから、いろんな意見を持っている方もいると思いますけれど、なお、そういうことも踏まえながら、我々の意見として、もうこの辺でスケジュール・日程等もありますので、早速パブリックコメントに入って、前に向いて進んでほしいと考えております。今までの御苦勞、その上にまた新しい学校をつくらうとするので、それ以上にまた苦勞があるかもわかりませんが、ぜひ頑張ってくださいと思います。

◎**浜田委員** パブリックコメントの聴取の仕方について御説明をいただきたいですが、例えばホームページ上、あるいは独自のフォーマットがあつて、それに基づいてやっていただくとか、その点御説明をいただけたら。

◎**坂本高等学校課企画監兼再編振興室長** あしたからパブリックコメントに入らせていただきます。やり方としましては、当課のホームページに、先ほど御説明をさせていただきました資料を掲載して意見をいただく、県が通常、パブリックコメントを行う場合と同様な形をとらせていただいております。電子メールですとか、ファクス、それからお手紙といった形でも構いませんが、ただ一つ、電話での御意見は御遠慮いただきたいと思っております。そういった通常県が行うパブリックコメントの形をとりながら御意見をいただくことで進めております。それから、資料の入手先は先ほど申しましたところに加えまして、県民室、須崎農業振興センターですとか、県が通常置いている場所に加えまして、県教育委員会の場合は、市町村の教育委員会、それから県の教育事務所にも、お近くのところで入手していただけるように考えております。

◎**塚地委員** 今のパブリックコメントについてですけれども、須崎高校と須崎工業高校の場合は、対応する小中学校の地域の説明会があつて、意見もいただいたと思うんですけれども、高知南中学校校区の近辺とか、高知西高校の周辺の小中学校、改編に当たってはこれからの子供たちのことが大切になるので、そこの地域の声は、私は改編の計画をつくる上でも大変重要なことだと思いますが、そこについては意見を聞く場は設けていなかったように思うんですけれども、どのような状況ですか。

◎坂本高等学校課企画監兼再編振興室長 須崎高校、須崎工業高校につきましては、教育委員協議会の中でそういった場を開いてほしいという御意見がございまして、7月に開催したところです。それから、先ほど御意見ございました高知南中学校・高校と、高知西高校の周辺の小中学生の保護者の方については、現在のところはまだ開催しておりません。それとはちょっと違った形で、高知南中学校・高校の近隣の町内会の方々とは今いろいろ御説明をさせていただく機会を設けさせていただいておりますが、今後そういった場を設けるかどうかは高知市とも協議しながら考えていきたいと思っています。それとは別に、小中学校の校長先生の方々には2度ほど現在の状況ですとか進め方につきましては御説明させていただきまして、いろいろ御意見はいただいております。

◎塚地委員 今後地域でどういう学校をつくるのかという点でいうと、地域の声は重みのあるものだと考えていますので、その部分は単なる一般的なパブリックコメントでいいのかということがあろうかと思うんです。そこを抜きにして、今回、計画が出されたんですけども、前の委員会でもそういう意見を聞くべきなんじゃないですかという御意見を差し上げていたと思うんですけど、そこは教育委員会の中でどういう取り扱いになったんですか。

◎坂本高等学校課企画監兼再編振興室長 須崎の場合は御意見があったということで早急に開催したわけですが、高知市の場合につきましては、まだ計画策定中ということもございまして、公にどういった形で説明していくかというのは中でまだ議論をしているところで、今のところこういった形でやりますという方針は決まっておりますが、検討させていただきたいと思っております。

◎塚地委員 それはぜひお願いしておきたいのと、高知市議会のほうで意見書が上がってましたよね。各会派に中間の案のときには御説明があったと思うんですけども、その状況をどう捉えておられるのか。

◎坂本高等学校課企画監兼再編振興室長 高知市議会から3月に意見書をいただきまして、いろいろやり方につきまして丁寧な議論を重ねてきました。それ以後、高知市の教育委員会を通じまして、高知市議会の各会派の方々に御説明の機会を何度か持たせていただいております。各会派に御説明する中で、今の高知南中学校・高校、それから高知西高校の方々との協議の状況を御説明させていただきまして、おおむね御理解をいただけるところに近づいているということも御報告させていただきながら、各会派の方々にも一定、私どもの進める統合の考え方についても御理解が進んでおるのではないかと考えております。

◎塚地委員 今おっしゃったように、地元の説明や御意見、それから市議会の御意見というところを、きちんと聞いて確認がとれた状況ではない中でパブリックコメントを出すことになると、パブリックコメントを受けるという体制と、片方でもう少し聞く必要のあるということ等の整合性がどうなっていくのかというのが懸念されるので、まだ聞く必要の

あるところを残して、今パブリックコメントでいいのか不安に思うんですが。

◎坂本高等学校課企画監兼再編振興室長 今回、統合の対象となっております、特に意見が出ておりました高知南中学校・高校の方々とは、公開の会議を5回重ねてまいりました。それ以外にも、事前に御説明する場をそれぞれ持たせていただきまして、回数は重ねてまいりました。そういったことから、関係者の皆様にはパブリックコメントに入ることについては御了解いただけていると認識しております。また、今後、パブリックコメントを終わりました計画を策定した後も、引き続き充実策であるといったことにつきましては、節目節目に協議させていただくというお話もさせていただいておりますので、そういったことも重ねながら理解に努めてまいりたいと思っております。

◎塚地委員 高知西高校で中学校をつくるとなると、高知西高校に近い中学校校区に与える影響も当然出てくるということで、地域の保護者の声も聞くべきじゃないですかとお話をしていたんで、それに対応する形をきちんと経ないといけないと考えているんですけれども。

◎田村教育長 確かに、いろんな方の御意見を広く聞くにこしたことはないと思います。ただ我々も、今年度の10月末でそれぞれの高校に向けた進路決定をしなければならない時期までに決める必要があるんじゃないかという思いで進めてきました。そういう中で、精いっぱい丁寧な議論ということで14回の協議会もさせていただいたと思っておりますし、その中で、少なくとも関係者の皆様については一定の御理解もいただいておりますし、先ほど企画監もお話をさせていただいたように、意見書をいただいた高知市議会も全員ではないかもしれませんが、ほとんどの方の御理解はいただけたと思っております。それをもってパブリックコメントに入らせていただくことは、決して時期尚早ではないと思っております。

◎塚地委員 これからの子供たちや保護者の選択ということがすごく大事になってくるので、今の方々でないところへの影響が今後出てくるわけで、そこから意見を聞くことが今後の計画の上では重要だと思うので、そこはぜひやっていただかないといけないと思っておりますし、パブリックコメントに入るとおっしゃるなら、パブリックコメントをやりつつも、そういう部分をきちんと聞くこともしていかないとだめなんじゃないかということをお改めしてお伝えしておきたいと思っております。

◎田村教育長 もしいろいろな御意見があれば、基本的にはパブリックコメントでということだと思っております。ただ、その後いろんな形で御意見、お話ししたいということはあるかと思っておりますので、そういったことについては、高知市の教育委員会を飛び越えてという話にはならないと思っておりますので、高知市教育委員会からもそういうお話があれば、我々としても柔軟に対応していきたいと思っておりますけれども。パブリックコメントの後ということになります。

◎塚地委員 図書館問題も含めてパブリックコメントを随分とやってきたんですけれども、パブリックコメントを受けて、それをこの計画にどう生かしていくかということがパブリックコメントの真髄なんで、どんな意見があるのかをきちんと聞いて、例えばこういう点は見直す、こういう点を変えるということも当然、執行部側の構えを持っていないとパブリックコメントをやる意味がないので、そこについてはパブリックコメントを踏まえた上で意見聴取をして、何らかの対応策も検討していくという受けとめでよろしいですか。

◎田村教育長 御意見を伺って、直すべきところは直していくというスタンスで、パブリックコメントは行わせていただくということだと思っています。

◎中内委員 この問題は、高等学校課だけの話ではなしに、教育委員会が全てこれに携わっているという認識で今後も対応してほしいと思っております。今説明を受けましたけれど、人口減になって厳しい時代を迎えることに対する新たな組織づくりも必要でしょうし、また、南海地震に伴う津波対策も含まれておりますけれども、教育委員会だけではなしに、これは尾崎知事の支える県庁という1つの大きな枠で取り組んでほしいということを特にお願いしておきたいと思えます。

◎坂本（茂）委員 先ほど来、関係者の皆さんに一定の理解を得て、了承もいただいたということを繰り返されていますけれども、関係者の皆さんもいろんな要望をしても変わらなければ、やむを得ないという形になりつつあったと思うんです。十分な理解を得て了承いただいたという形には成り切れてない。何とか思いを受けとめてもらえないとか、酌み取ってもらいたいという要望は最後まで出ていたと思うんです。そういったことがまた今後のパブリックコメントの声として反映されてくる部分もあるでしょうし、そこについては、きちんと耳を傾けて反映させていく姿勢を堅持してもらいたいというのがあります。もう一つは、塚地委員が言われた、高知市内の関係する校区の声を聞く手だては、実はこれまで抜け落ちてたのではないですか。須崎の場合は、要望があったからやりましたと言われてましたけれども、高知の場合は、本来だったら要望がなくても当該の関係者だけでなく、校区の小学校、中学校はどうなのか、近隣の声聞くことも本当は並行してやっておくべきだったのが、抜け落ちていたのではないのかなと思ったりもするんですけれども、教育委員会としては抜け落ちていたのではなくて、やる必要がなかったからしてこなかったということですか。これからでいいというお考えなのか。

◎田村教育長 将来のという意味で言いますと、例えば小中学校のPTA連合会の会長であるとか、小学校の校長会の会長の御意見をいただいております。今回の再編振興計画は、もちろん地域地域のいろんな方の御意見を尊重するのは必要だと思いますけれども、再編振興計画は、高知県全体の高校の教育環境を充実していくという観点でつくらせていただいているものですので、個々の地域の皆さんの御意見を聞くのが必須かというのと、そこまでのことではないのではないかと思います。

◎坂本（茂）委員 先ほど、塚地委員に、これからはそういうこともやっていくと言われたわけですから、必要でなかったら、逆にやる必要はないですね。

◎田村教育長 これからお話をさせていただくと言いましたのは、パブリックコメントを終わり、最終的に計画をつくった後に、実施していく上で、いろいろな御意見もあればそれはお伺いするような機会も、それは地元の教育委員会とも相談させていただいてということになると思います。そういうことは考えないといけないということで申し上げたということです。

◎坂本（茂）委員 ちょっとそこは違いがあるのかなと思いますけれど。それともう一つは、先ほど10月末で進路決定ということもあり、1つのタイムスケジュールがあるんだという話ですけれども、パブリックコメントをとって策定するのが10月下旬ですね。本来それを受けてから進路決定になるとしたら、まだ振興計画そのものが固まってない中で進路決定をするということは、時期的にどうなんですか。

◎藤中高等学校課長 現在の中学3年生、あるいは小学校6年生、そういった進学を考えている子供さんたちにとって、中学校でいえば、10月から11月に、まずは自分の進路を先生方、保護者と一緒になって考えていく時期。そして、最終的に12月、1月に決定していくわけですが、その方向性をしっかり定めるのが10月から11月の学校との面談で始めていきますので、10月の末までに振興計画が策定されれば、その後、そういった内容についてもしっかりと広報活動ができますので、子供たちの進路選択には間に合うと考えております。

◎坂本（茂）委員 そうしたら、学校が小中学校回りをして、できたら受験してもらいたいというお話に行くのは、10月下旬の振興計画の策定を受けてからということになりますか。

◎藤中高等学校課長 再編振興計画を策定した段階で、基本的に充実策も含めて全てが了解されたということになります。それをもって、こういった学校にしていく、こういった方向性でこの学校を進めていくということを、しっかりと高校側が説明できますので、策定後にしっかりとやっていきたいと考えております。

◎池脇委員 何点かお聞きしたいと思います。まず、最終的に振興計画案がこういう形でまとまったことに対しては大変御苦労されたと思いますので、それについては敬意を払いたいと思います。先ほどからも議論がありますように、今回の最終案で注目されたのが、高知南中学校・高校と高知西高校の統合化の問題であつたろうと思います。最終的に、高知南中学校・高校の保護者、あるいは進取会等々関係者の方との会合が9月8日に行われておりますが、お話を聞かせていただいて、県教育委員会として、一番関係者の方からの声が、あるいは要望が強かったのは何か。それに対して、県教育委員会としてはどういう形でお答えをされて、この案をまとめられたのかという点について、御説明を再度お願い

したいと思います。

◎坂本高等学校課企画監兼再編振興室長 主に高知南中学校・高校の関係者の方々でしたが、御要望の内容は時期とともに少し変わってきたと思います。最初は県教育委員会の進め方につきまして、唐突であったとか、説明が足りないといった御意見が多くございました。あわせて、なぜ高知南中学校・高校なのか、なぜ統合が必要なのかといった御意見が主でございました。それにつきまして、最初は御意見をいただいたことにつきまして文書で回答するといったことと、詳細な資料を御説明させていただくことで、一定御理解が進んできた経過がございます。それを受けまして次の議論としましては、従前御説明させていただきましたような統合の仕方であるとか、校名についてという2つの論点に絞られてまいりました。それについて、改めて詳細な資料で統合の仕方を見直すであるとか、校名については、後で議論の場を設けさせていただきたいので御理解いただきたいという説明を重ねまして、確かに坂本委員が言われたように、まだ御要望は残っておりますが、パブリックコメントに入ることについては、おおむね御了解いただけたのではないかとこのところへ進んできたのかなと思っております。

高知西高校につきましては、当初は高知南中学校・高校の関係者の方々とのやりとりが中心になっておりましたが、進むにつれ、校名の話が出てまいりました。そういった関係で、校名についての取り扱いをどうするのかという議論が中心になってまいりました。それとあわせて、新しい中高一貫教育校をつくる場合の、例えばグラウンドの整備であるとか、ハード面の整備についてのお話も出てまいりました。そういったことの協議も重ねながら、当初、校名については、高知西高校については変えてほしくないという主張をされておりましたが、それもいろいろ協議を重ねさせていただく中で、統合後に議論させていただきたいということで御了解をいただきました。

◎池脇委員 パブリックコメントをすると、当然、高知西高校の関係者の方、それから高知南中学校・高校の関係者の方からの御意見、御要望が十分かなえられてないという状況であれば、その要望等についてのコメントが寄せられる可能性はあると思います。県教育委員会として再度そういう御意見、御要望が寄せられてきたときの受けとめ方はどうお考えになっておりますか。

◎坂本高等学校課企画監兼再編振興室長 先ほど教育長も申しましたように、パブリックコメントというのは御意見をお聞きする場ですので、同じ当事者でございます高知南中学校・高校、高知西高校の方々から御意見をいただきましてもそれは当然受けとめまして、お答えもしていかないとはいけないと考えております。

◎池脇委員 それと、以前に廃止される学校に入学する生徒たちの心情についてどうお考えになるのかという御質問をさせていただいたのですが、今回のこの案を見ますと、2年間に短縮をされております。これがぎりぎりの配慮かなと受けとめたんですけども、2

年間に短縮したことについての検討はどのようになされたんですか。

◎坂本高等学校課企画監兼再編振興室長 池脇委員がおっしゃいましたように、当初のたたき台案では、下の学年がない期間が5年間続くということでしたが、そういったことは生徒の心情を配慮した場合、それからいろんな教育活動の面でも支障があるのではないかと考えまして、2年間に短縮させていただきました。ただ、2年間に短縮しましても、やはり下に学年がない期間はあります。そういったことで高知南中学校・高校の方々からも、さらに下の学年がない期間がない案はできまいかという御意見もいただきましたので、第12回・13回と、そこで議論を重ねてまいりました。ただ、高知南中学校・高校の方々が言われます、一度に中学校、高校が移る案は考えられないことはないですが、実際やるとなると、学校運営上いろいろな問題が出てきますので、そういったことを考えますと、やはり今の言いました2年間に短縮するというのが、委員がおっしゃられるようにぎりぎりの案ではないかなと県教育委員会では考えたもので、これがベストの案であると考えています。

◎池脇委員 ベストとは言えないと思うのですが、ベターだろうとは思っています。その点については、これからも関係者の方に理解をしていただく努力が必要だと思います。そこは要請をしておきたいと思えます。

それから、もう一点が、中高一貫教育にかかわる問題です。県下で3校あります。今回の改編の中で、中高一貫の6年でグローバル教育をしっかりとやっていこうという明確なる教育指針の中で、これから具体的なカリキュラム、あるいは体制を検討されていくと思うんですけども、一方、安芸高校と中村高校については同じ中高一貫で、同時スタートですけれども、この案を見る限りは、今までの形での推進、あるいは継続という言葉でまとめられている。しかし、振興計画の目的では、生徒のレベルアップが求められて、やるということを前提にして学校再編ということも1つの重要な要因になっているわけです。であるならば、この再編の中に中高一貫の制度の問題を抜本的に見直して作り直すというものが入るべきではないかと思うんですけども、その点はいかがですか。

◎藤中高等学校課長 今回の再編振興計画においては、併設型中高一貫校については、3地域それぞれにバランスよく配置することが基本的な考え方で、高知南中学校・高校と高知西高校を統合した新たな中高一貫校は、グローバル教育ということで、特化した中高一貫高校の特徴を持ったものをつくっていかうとしています。ただ、本来、高知南中学校・高校、それから安芸中学校・高校、中村中学校・高校は、6年間の中高一貫校でやっていく中においては、6年間を見据えた系統的な学習に基づいて、子供たちがしっかりとした6年間で社会に自立していけるような力、さらには上級学校への進学進路保障ができるような力ということで進めてまいりました。その部分については、再編振興計画のこれからの10年についても、さらに生徒の進路実現を保障することに対しては、特に中高一貫校へ

の期待度は、進学の実績も含めて、子供たちの上級学校への希望にかなった進路実現をするかが大きな課題になります。そのために6年間の中の中学校から高校に上がる際の中だるみが、一番大きな問題になっておりますので、そこを解決するための方法として、6年間の大きなカリキュラムでどういったことをやっていくのか。また、今回の新たな統合によって行われるグローバル教育のプログラムを先行実施していく中で、探究学習であるとか、そういったものも6年間の中に全部入れていきながら、より明確な目標を持ってしっかり進路保障ができる6年間の中高一貫教育校、高知南中学校・高校と安芸中学校・高校と中村中学校・高校については、もう一度研究をしていきたいと思っております。

◎池脇委員 これは、今後の高知県の高等学校の10年20年を決定づける基本的な方向を示した案ですので、私は、スタートの段階にそうしたものが明確に組み込まれている必要があると思います。ちょうど中高一貫校の検証の時期でもあったと思います。当初の期待に十分こたえられている状況ではないと思うんです。さらにレベルアップを目指そうとするならば、今回の再編計画の中でもその点については検討課題としてしっかりはめ込む必要があると思いますので、これは要請をしておきたいと思っております。

それと、同じく、総合学科も導入してから検証の時期に来ていると思います。総合学科の特性が生かされた教育が実現したかといえば、そうでもなかった。特に典型的なのが、高知東高校の総合学科であったろうと思います。本来の総合学科が目指すものが十分反映された学校経営になっていたのかどうか、大きな分岐点になると思いますので、この総合学科のあり方についても、この中にしっかり検討課題として入れておくべきではないかなと思います。というのは、社会性の育成と進路の保障という大きな項目をしっかり入れているわけですから、総合学科というのは、子供たちのそうした面をしっかり個性を生かした形で教育するのが本来の目的であったと思うんですけれども、十分には成果が出ているようには思えません。ここは中高一貫校と同じように制度論として、この中身をどうしていくのか、抜本的な改革をしていく必要があると思います。そうした点についてしっかりこの振興計画の中に組み込んで、対応を図っていくべきだと思います。教育長、御意見はいかがですか。

◎田村教育長 貴重な御意見ありがとうございます。おっしゃることは大事だと思います。今回の計画はどちらかというと、学校の規模であったりとか、そういう全体の枠組みに主眼を置いた計画になっている面はあると思います。本県の教育振興基本計画の重点プランが来年度で一定の区切りを迎えます。次の段階のプランを考える必要があると思いますので、そういった中で今お話のあったことについて我々としてしっかりと検討させていただきたいと思っております。

◎坂本（茂）委員 一つお伺いしたいですけれども、校名問題はある意味先送りみたいな形になってるんですけれども、基本的な考え方としては、統合して全く新しい学校ができる

という捉え方でいいわけですね。

◎坂本高等学校課企画監兼再編振興室長 現在の高知南中学校・高校、それから現在の高知西高校が統合することによって、資料にも書かせていただきましたように、新しい中高一貫教育校ができるということで、同じように要綱に説明させていただいております。

◎坂本（茂）委員 それでいうと、新しい学校ができるときには、高知西高校も高知南高校も廃校という形になる。条例でいうと、両方廃止して新たな高校を設置するという形になるわけですね。例えば、高知西高校の校名改称だけでは済まないということですね。そういう捉え方でよろしいですね。

◎田村教育長 そこは、考え方は先ほど企画監が言ったとおりですけれども、具体的な進め方としてどうなるかは今即答ができませんので、改めて御報告させていただきたいと思っております。

◎坂本（茂）委員 普通考えたら、新たな学校を設置する条例ができて、高知西高校と高知南中学校・高校を廃止する条例が出ると受けとめて、初めて1つの新しい学校ができるというふうになるんですけども。校名は別にして。それはこれから検討するわけですか。

◎田村教育長 少しどうかと今思ったのが、新しい中高一貫校は平成30年にできます。その時点でまだ高知南中学校・高校は残って高知南中学校・高校は平成33年までは存続するので、その手続きがどうなるかは、今即答できないということです。

◎塚地委員 先ほど池脇委員がおっしゃったことは、この計画をつくる上ですごく大事なことだと思っています。県立中学校をつくって進学拠点校的な位置づけをして、それがどうだったのかという点の検証と周辺に与えた影響がどうだったのかという点で、私たちは県立であえて中学校をつくる必要があったのかを、今改めて思っているところで、今回そういう検証がきちんとした形でまとめられずに新たに高知西高校に中学校をつくるという話が出て、それはやはりきちんとした一定の総括に基づいて、県が出すなら出すという形にしなくてはいけなかったことで、形をつくっておいて中身を入れるということで、どうなのか。先ほどの中学校から高校での中だるみができるという議論は当初から出てきていた話で、10年間やってきて、結局その部分はなかなか難しかったんじゃないか、むしろ周辺の学校に与える負の影響が結構大きかったんじゃないかというのは、学校の現場の方々からも出ている地域の声でもあるので、そこを踏まえた議論がどうされたのかは改めてお聞きしたいです。

◎藤中高等学校課長 併設型あるいは連携型、それぞれの中高一貫教育校については、この再編振興計画の案をつくる際においては十分検討委員会の報告も受けながら、再度、県教育委員会の中で議論をさせていただいて、その結果として、こういった計画の案をつくらせていただいております。その中で、中学校から高校入試がないということでの中だるみの問題があるというのは、現状としても一部そこが解決できてない部分もございます。

ただ、中高一貫校をつくるに当たって、安芸中学校・高校、中村中学校・高校、高知南中学校・高校におい地域の小学生の第2の選択肢として、そういった中学校に行き、6年間を見据えて学んでいく。そういった中で中学校で部活動とか切磋琢磨していく部分においては、当初は高知南中学校・高等学校については、課題があったという認識はしております。それを十数年にわたっていろいろな改善策をとりながら、教員そしてバックアップされている保護者、子供たちが頑張っていく、現状としては、高知南中学校・高等学校の中学校については、子供たちも行きたい一定の水準の学校になっております。同じように、安芸中学校・高校も中村中学校・高校についても、そういった方向で子供たちはできた10年間においてその学校に行きたいと入学し、そして高校まで行って卒業している状況があるろうと分析をしております。この3校をつくったことについては、総括としては、十分な新たな選択肢として、子供たちが6年間という大きなスパンで学んでいき、社会に出ていく部分において成果は出ている。また、1つのメルクマールですけれども、大学進学を考えたとき、高校3年間よりも6年間しっかりやっていったことによる実績も、その前の同じ学校の実績と比較すると確実に出ておりますので、県教育委員会としては、トータル的には中高一貫校は目的に向けた成果が出ていると考えているところです。

◎塚地委員 小学校卒業の段階から進学意欲を持った子供たちが来るので、当然、進学率が上がっていくという一面はあると思うんですけど、地域の公立中学校をどういう中学校にしていくのかということも、県教育委員会の大事な視点で仕事でもあるわけで、地域としての教育力全体を考えることも当然必要なことで、だからこそ、子供たちにとっても受験競争が激しくなる中学校入試は見合わそうということで当初始まってきた経緯もあったんですけども、それもだんだん流されて、結局、受験校みたいな形になってきた、子供たちの受験の弊害も出るわけなんで、先ほど校区の小学生や地域の方々の御意見をぜひ聞いてもらいたいですと言ったのは、そういう意味も含めてのことですので、ぜひそういう声も広げて聞いていただけたらなということは改めて言っておきたいと思います。

◎土森委員 今の関連ですけどね。中村の県立中学校は非常にいいですよ。そして、他の私立の小学校、中学校との関係も学力だけではなく、スポーツの面でも非常に良好な関係になっています。あそこを目指して頑張っている小学生がおりまして、県立中学校に入れなくても他の中学校に入っても別に問題はうちのほうにはないんです。かえって良好な関係ができ上がっています。そういう方向づけの中高連携一体教育を目指していくことは正しい方向だったと思います。そのことを県教育委員会もよく御承知のはずですし、それと、市教育委員会との連携をもう少し強めたらどうかなと思います、その辺はどうですか。

◎藤中高等学校課長 6年間を見据えた中高一貫校ということでやっておりますけれども、県立中学校というのは、いろいろな意味での研究的なモデルをつくれるやれるステージで

ございますので、そういったところを県全体で考えていく。やはり市の教育委員会、教育事務所と連携しながら、さらに県立中学校の子供たちを育てていく。また周り全ての中学生と一緒にの指導法についても普及する、そういった役割をもっと高めていかないといけないとは思っております。

◎池脇委員 検証と言ったのは、負の部分が多かったという視点での話ではないです。やって、結果、義務教育の壁と高校教育の壁を、本来はどういう形で崩して、つなげていくのかというのが中高一貫であったと思うんですけども、いろんな制約があって、その壁をなかなか崩すことができなかった。その努力が足らなくて、結局、ただ併設をしているだけの形に陥ったのではないかという思いがはたから見てある。これからは義務教育と高校との壁をどうフラット化できるのか、その努力をしっかりとやって、点から面にフラット化を広げていく。そして中高一貫のよさを高知県の教育としてつくり上げていくことが大事だろうと思います。そこもあらかじめそういう規約があって、制度が違うからということで、そこに余り触れなかったところに中学校は中学校として独立・完結をしなくちゃいけない、高校は高校で新たに出発しますという考えで、義務教育の先生と高校の先生が同じ職員室にいたとしても、これは中高一貫のよさが出てこないわけです。そういう意味では、土森委員がおっしゃられましたけども、市教育委員会、それから義務教育の現場の先生方にもしっかりと御理解をしていただくという努力が非常に重要ではないかなと思います。せっかくなのでつくり上げてきている中高一貫ですから、さらによさを伸ばしていく方向性でぜひ検討をしていただきたいなという思いで言いましたので、その点は踏まえていただきたいと思います。

◎加藤委員 細かいところを2点ほど。第13回の協議に、校友会と国際教育振興会が入ってなかったのはどんな理由だったのでしょうか。

◎坂本高等学校課企画監兼再編振興室長 第12回の会議の中で、統合の仕方について、一度に移れまいかという保護者の方々からの提案がありました。それについて議論しまして、この第13回に出てきておりませんが、校友会、それから国際教育振興会の方々は、一定もう議論は尽くしたということで、もうそれ以上主張することはないということでの欠席でございます。それから進取会につきましても、会長ではなく会員の方の出席でした。会長も同じように、もう議論は一定尽くしたということで、会員の方が1名で、先ほど申しました統合の仕方について意見を申したいという方がおられましたので、こういった形で開催させていただきました。

◎加藤委員 それともう一点ですね。高知南中学校・高校の生徒の全体数が減っていきまますよね。部活というのはどうなるんですか。まだこれからですか。

◎坂本高等学校課企画監兼再編振興室長 学年が残ってきます中学校・高校でそれぞれ2学年、最終中学校・高校で1学年になります。おっしゃられますように、教員ですとかそ

ういう教育環境の充実策は精いっぱいやらせていただきますが、生徒数がどうしても減ってまいります。そこは、クラブ活動が一番支障が出るのではないかと考えております。そこは、ほかの高校との連携ですとか、具体的にまだこう進めますというところまでは今後いろいろ協議していく中での検討課題ですが、どういった形で進められるかということを含めて、いろいろ学校とも協議しながら進めていきたいと思っております。

◎加藤委員 最後ですけれど。この協議自体はこれで終了でしょうか。その後報告をしたり、今後校名をいつ決めていくとか、今後の流れはどう考えられていますか。

◎坂本高等学校課企画監兼再編振興室長 こういった正式の教育委員協議会という計画策定に向けた協議の場はこれで一旦は終わらせていただくということで、須崎高校、須崎工業高校、高知西高校、それから高知南中学校・高校の方々には御了解をいただいております。今後につきましては、1つは校名の問題がございます。須崎高校も含めて4校が校名についての思いが強うございますので、計画策定した後に、平成27年度から平成28年度、統合までの2年間の余裕がございますので、2年間いっぱいかかるかどうかはわかりませんが、時間をかけながら、校名、校歌、校章などの取り扱いをどうするかを両校の御意見をお伺いしながら、また、県民の御意見もお伺いしながら進めさせていただくことで御了解いただいております。そのほかの教育の充実策などにつきましては、計画が策定した後に今後具体的な予算要求に向けて一定の節目の場を設けながら、それぞれ今まで御出席いただいた関係の方々と事務局とでこういった会議ではなくて、また御意見の場を設けさせていただきたいとお話しさせていただいております。

◎明神委員長 それでは、これで質疑を終わります。

以上をもって、本日の委員会を閉会します。

(14時11分閉会)